

# 議会だよ入善

GIKAI

DAYORI

NYUZEN

No.163  
2012年 10月27日



親子で「こあらりんぴつく」（こあら保育所）

9月定例会

不活化ポリオワクチンの接種開始 (補正予算)	2p
災害廃棄物は「木くず」か (委員会レポート)	4~5p
町政を問う 一般質問 (6議員)	6~11p
福井県大野市の地下水保全対策 (委員会視察レポート)	12~13p
新屋住吉社の秋祭り (入善の祭り)	14p



# 不活化ポリオワクチン接種開始

9月1日より集団接種から個別に

9月議会の  
あらまし



幼児の予防接種

9月議会に提案された一般会計の補正予算は、LED防犯灯設置補助金、太陽光発電システム設置補助金の増額や、町道の改良舗装事業費の増額などが予算化された。  
一般会計で1億7470万円を追加し、総額103億9461万円とした。

## 補正予算の概要

9月議会は、4日から20日までの17日間開会し、町長から提案のあった平成24年度補正予算1件、条例の一部改正など議案4件について審議し、教育委員会委員任命の同意、人権擁護委員候補者の推薦など、すべて全会一致で可決した。  
また、12日に一般質問が行われ、6人の議員が質問に立ち、論戦が交わされた。

## 主な事業

### LED防犯灯設置補助 100万円

LED防犯灯の設置、改修などの増加に伴い、補助金を増額する。

### 不活化ポリオワクチン接種費 643万円

生ポリオワクチンから不活化ポリオワクチンへ切替わり、接種方法も集団から個別へ変更となった。接種回数も増え単価も上がったことから、費用を増額する。

### 太陽光発電システム設置補助 410万円

住宅用太陽光発電システムの設置者が増えたため、補助金を増額する。

### 道路改良舗装事業費 5500万円

公共事業の推進と地域要望にこたえるため、町道の改良、舗装事業費を増額する。

### 消防団備品整備 82万円

用水などの水位が低くても吸水可能な機具「低水位用吸管ストレーナー」を、各地区の消防車に配備する。

### ニカメイチュウ防除補助 67万円

沿岸部を中心とした水稲の害虫「ニカメイチュウ」の発生に伴う緊急防除に対し補助をする。

### 戸別所得補償 経営安定推進事業補助 2995万円

農地集積協力金（人・農地プラン）の申請件数の増加に伴い補助金を増額する。

### 災害復旧費 880万円

7月の集中豪雨により崩壊した林道の復旧工事を行う。

### 農村資料館の解体などに係る工事費 500万円

老朽化の著しい農村資料館を取り壊し、収納品を展示するため、黒東小学校の空き教室の整備を行う。



## 主な条例の改正

### 火災予防条例の一部改正

法改正に伴い電気自動車用の急速充電設備を火気設備の対象に追加し、設置する位置、構造及び管理に関する基準を新たに定めた。

### 農村活性化センター条例の廃止

野中地区交流センター（仮称）の建設に向け、建設予定地に立地している入善町農村活性化センター（あぐり館）を閉館するため条例を廃止した。

### 教育委員会委員の選任

平成24年9月30日で任期満了となる柚木俊二氏、滝本恒平氏の再任に賛成全員で同意した。

柚木 俊二 氏

（入膳）

滝本 恒平 氏

（上飯野新）

### 人権擁護委員候補者の推薦

平成24年12月31日で任期満了となる本瀬薫氏（再任）、松島圭子氏（再任）の推薦について、賛成全員で同意した。

本瀬 薫 氏

（春日）

松島 圭子 氏

（道市）

### 私たちが慎重に

### チェックします

### 平成23年度決算特別委員会を設置

平成23年度入善町一般会計および特別会計の歳入歳出決算の審査について、決算特別委員会を設置し、次期12月定例会まで審査することとした。

委員は次のとおり

委員長

副委員長

委員

委員

委員

山下 勇

五十里 隆 章

松田 俊 弘

松澤 孝 浩

笹島 春 人

姉妹都市

### 登米市議会が来町

来町日 平成24年8月7日（火）

研修内容 「水資源を活用した町の活性化」

宮城県登米市議会産業経済委員会による視察研修が役場会議室で開かれた。

水の小径のダイロ発電実験、深層水活用施設、（株）ウーケを見学し、水を活用した町のPRなどの取組みを視察された。



登米市議会の視察



# レポート

## 総務 常任委員会

### 土木費国庫補助金の内容と対象は

**Q** 民間宅地開発に、国から250万円の補助金が出ているが、対象はこの開発か。

**A** 桃李小学校の西側とアイシン新和(株)北側で行われている宅地開発で、道路と消雪装置整備に対するもので、補助率は50%。

定住促進策として町が雇用促進住宅を買い取ることから、民間の宅地開発にも国が補助することになった。

**Q** 雇用促進住宅の買い取り交渉は、順調に進んでいるのか。

**A** 「高齢・障害・求職者雇用支援機構」との交渉では、当初の価格より安くなるのではないかと感じている。



着々と進む住宅建設

### 地下水流量調査の内容は

**Q** 調査の委託料が120万円近く減額になっているのはなぜか。また、調査内容の主なものは何か。

**A** 当初、町単独で調査する計画だったが、黒部市と合同で行うことになったので、経費削減

につながった。調査の内容は、主に黒部川からの地下水の浸透量と水質調査である。

### LED防犯灯設置補助 今後も積極的に

**Q** LED防犯灯42灯の新たな設置に100万円の補助金を計上しているが、町内の防犯灯の設置状況はどうか。

今後のLED防犯灯設置要望に、積極的に応えていく考えはあるか。

**A** 今までは水銀灯の設置にも補助をしていたが、LEDのみに補助をすることにした。1灯3万2000円か

かるが、その75%を補助する。町内には、2789カ所に防犯灯が設置されており、LED化されたものは200余りだ。

要望があれば積極的に応えたい。

### 不活化ポリオワクチン 導入でなぜ接種委託料 が増えるのか

**Q** 法改正により従来の生ワクチンから不活化ワクチンに変更されるが、接種委託料が640万円も増えるのはなぜか。

**A** 生ワクチンの接種は2回で、1回の費用

は1791円だった。不活化ワクチンは1回9200円かかり、4回受けることになるが、全額町が負担する。

### 消防ポンプ車に配備する 低水位用吸管の機能は

**Q** 新たに導入する低水位用吸管は、どの程度の水位まで吸水できるのか。

**A** 10cmあれば吸水できる。従来のものは20~25cm必要だった。消防本部では平成8年から導入しており、今回、分団の全ポンプ車に装備する。

### 両委員会の 議論から 岩手県から受け入れる災害廃棄物は本当に木くずなのか

**Q** 新川広域圏組合は岩手県山田町の災害廃棄物をエコぼくと

で焼却する方向だが、町当局の説明では受け入れるのは「木くず」とのことだった。環境省の資料では、

富山県では「可燃物」、「木くず」は静岡県で処理されることになっている。

岩手県の資料では「可燃性混合物」となっている。どちらが正しいのか。

**A** いろいろな呼び方があるが、混乱を与えている。

7月に広域圏組合で視察してきたものは、ほとんどが木くずで、わずかにビニ・プラが混ざっている程度だ。



# 常任委員会

## 産業教育 常任委員会

おいしい米づくり実  
践事業の内容は

**Q** ニカメイチュウ緊急  
防除への補助は、時  
宜を得た事業だが、今年  
度だけか。

継続事業化で早期撲滅  
を計り、減農薬米に結び  
つけよ。

**A** 今年度だけである。  
この事業は、10 a 当  
り、町・J・A・農業共済  
組合が各々100円ずつ



おいしい米づくりへ

負担して、農家に助成す  
る。(農家は300円負  
担)

今回は緊急的な対応  
だったが、かなりの効果  
があった。今後の対応を  
検討したい。

**Q** ニカメイチュウ対策  
に、田んぼの秋起こ  
しや「荒くり」を行うなど  
の管理が必要ではないか。

散布体制なども、生産  
組合単位で考えてはどう  
か。

**A** 管理については、県  
やJ・Aにも協力をお  
願ひし、数年間の期間で  
対応したい。助成が必要  
なら考える。

### 「人・農地プラン」 の増額補正の内容は

**Q** 農業経営基盤強化促  
進事業費増額の内容  
は。

**A** 今年度から国の事業  
として、「人・農地プ  
ラン」事業が発足した。

この事業では、担い手  
農家への農地の集積を図  
るため、離農者に対し農  
地面積に応じて一時金を



山積みの災害廃棄物

を支払う。そのためには、  
農業公社に10年以上、農  
地の白紙委任などの要件  
がある。

年度当初は13農家の離  
農を見込んでいたが、そ  
の後の全農家への意向調  
査の結果、4月には39農  
家の離農希望があり、手  
続をした。

今後、100戸程度の  
離農が予想されるので、  
3000万円の補正予算  
を組んだ。

**Q** 環境省の資料にあ  
る「可燃物」の写  
真には、かなりのビ  
ニ・プラ類が混ざって  
いる。こうした物をエ  
コぼろとで燃やして良  
いのか。

**A** エコぼろとでは、  
ビニ・プラが多く  
混ざると、炉が傷みや  
すくなる。  
9月末に住民を募つ  
て現地へ視察に行く際、  
町職員も同行し確認し  
てきたい。

### こんな意見も

●ニカメイチュウ防除で  
は、防除薬の配布を受け  
ても、散布できない農家  
が多く見受けられた。

機械がなかったり、撒  
く労力が大変だったり、

近所にもお願ひしにくい  
などの理由からだ。

●地場産材を使った建物  
が、あまり見受けられな  
いのではないか。保育所  
などの建設では、県産材  
や新川産材など、地元で  
育った木を地元で使うの  
が一番だ。



検査を待つ入善米





入善浄化センター

## 災害廃棄物の焼却処理 風評被害にどう対応するのか

### 町長 先行例を参考に放射線量を測り公表する



松田 俊弘 議員

**問** 新川広域圏組合は、岩手県の災害廃棄物をエコぼくとで焼却する計画だが、何をもって「住民の理解を得た」と判断するのか。

農家は風評被害を恐れている。月1回の焼却灰の放射能濃度測定や週1回の放射線量測定では、不十分だ。線量測定は住民参加で行い、回数や箇所を増やすべきだ。

**米澤町長** 試験焼却の計画内容を住民に説明し、焼却の前・中・後の測定データを公開する。

本格焼却では先行例を参考に、測定回数などを定めデータを公表する。

隣接市町と協力し、下水道の大幅財源不足に対応を  
**収入確保につながるの  
で前向きに検討する**

**問** 町は、下水道特別会

計で、4年後から毎年2〜3億円の財源が不足することを明らかにした。

昨年、当局は「処理施設の削減で約60億円節減でき、財政は良くなってきた」と述べていたが、不足の理由は何か。

安易に町民の使用料引上げで解消すべきでない。どう対応するのか。

町の浄化センターは約1万人分の余裕がある。朝日町の小川から西の地域は、これから下水道整備が行われる。黒部市は、愛本新の下水処理を町に打診していると聞く。

これらの地域の下水を町で受け入れ共同処理することで、お互いの経費

を削減できないか。  
また、一般会計からの繰入れや貸付も検討すべきではないか。

**大角建設下水道課長** 財源不足の要因は、町内人口の減少で、使用料収入が大きく減収すること。また、浄化センター施設の電気・機械設備などの更新経費を計上していなかったことである。

これまで以上の経費削減や下水道接続率の向上に努めるが、使用料改定についても、検討していくかざるを得ないのであると考えている。

他市町からの受入については、下水管の能力の検討が必要だが、収入の確保につながるの、前向きに検討していく。

**林副町長** 一般会計からの貸付は、大いに利用すべきと思う。

11月からのバス路線変更は、どこに基準をおいたか  
**買物や通院、温泉施設  
に乗換えなしでいける**

**問** 11月中旬に新路線での町営バス運行を実施することだが、今回の見直しの基準をどこにおいたのか。

**梅津企画財政課長** 朝夕運行では、中沢公民館へ入善駅区間を増便する。利用の少ない柵山・横山線や小摺戸・飯野線の西入善駅へ入善駅区間を廃止する。

日中運行では、循環路線を廃止し、買物や通院、温泉施設などに乗換えなしで、直接行くことができるようにした。

また、利用の少ない停留所の廃止で運行時間を短縮し、本数の増便を図る。



## がれき広域処理への町民理解は得られたか

### 町長 基準内の安全なものの受け入れを説明

問 東日本大震災による

災害廃棄物の広域処理に  
対し、町内3カ所で住民  
説明会が開催された。

町民の理解は得られた



新川広域圏組合による放射線測定

か。

町長 エコぼくと隣接

する古黒部や荒又地区、  
町民全体を対象とした説  
明会を行なった。

処理する廃棄物は、福  
島原発から250kmの距  
離にある被災地のもので  
ある。

放射線量は自然界レベ  
ルであり、安全なもの  
のみの受け入れ、各段階  
での測定の実施と数値確  
認などを説明した。

また、環境省からも、  
先行実施している試験焼  
却でのデータの説明がな  
された。

受け入れる廃棄物の安  
全性について、一定の理  
解が得られたと思う。



佐藤 一仁 議員

問 新川広域圏内の各自

治体間で、取組への足並  
みはそろっているか。  
本格焼却のスケジュー  
ルは決まっているか。

町長 広域圏2市2町の  
首長の考えは、3月以降  
の理事会で、受け入れる  
方針で確認している。

国では、広域処理の完  
了を平成26年3月として  
いるが、新川広域圏では、  
平成25年12月までとして  
いる。

反対町民への今後の  
説明は

データを公開し説明す  
る

問 住民説明会では、が

れきの放射能汚染に対す  
る不安を理由に、反対を  
する町民の声があった。  
今後、継続的に説明を  
行うのか。

町長 測定データを公開  
し、その都度、安全であ  
ることを説明する。

古黒部地区の町道や  
未舗装農道の改修を  
要望箇所を調査し条件  
をみながら検討する

問 古黒部地内では、基  
盤整備事業後の農道の舗  
装や、町道の電柱の移動、  
旧用水の埋立てなど、改  
修が望まれる。

建設下水道課長 古黒部  
南部地区だけでも、砂利  
道の町道が約0・9km、  
農道は約9・3kmある。

多額の費用と時間を要  
する。国庫・県単事業で  
の取組みも困難だ。

通学路や下水管理設  
線などを考慮した結果、  
古黒部藤原線を町単事  
業で整備着手した。

問 赤川橋の架け替えや、  
県道朝日入善線バイパス  
化工事の進捗状況と、藤  
原地区への延伸見通しは。

建設下水道課長 赤川橋  
の下部工事が今年度で完  
了見込だ。来年度以降に、  
橋上部の工事にかかる予  
定だ。

県は、小川から町道古  
黒部国道線までを第1期  
区間として整備している。  
供用開始まで、あと2・  
3年かかるのではないか。  
古黒部から藤原地区へ  
の第2期区間については、  
現在の第1期区間の完了  
見通しがつき次第取りか  
かるとのことだ。





人気の「高瀬ゆう水の庭」

## 老朽化したJR施設は開業前に改修を

### 町長 優良資産の低廉な価格での譲渡は必要不可欠



九里 郁子 議員

**問** 県は3セク運営の並行在来線の運賃を25%引き上げる考えだが、町はこれでいいとの考えか。

JR資産の無償譲渡や譲渡前に老朽化した施設の更新、開業前に新型車両導入とホームのかさ上げなどを求めるべきだ。指令センターについて、関係する運営会社の共同運用を求める考えはあるか。

**町長** 県に対し、利用者負担が大幅に増えることがないように求めている。初期投資額の圧縮や、国やJRへの財政的支援要請などを県に働きかけている。

優良資産の低廉な価格での譲渡は、必要不可欠と考えている。県も、JRに、ホームのかさ上げと開業前の新型車両運行

などについて調整を進めていると聞いている。

指令システムは、開業後一定期間、JR西日本の施設を富山、石川、新潟の各会社と共同で使用する。

その後、各県単独システムに移行する方針だが、金沢や糸魚川への相互乗り入れも考慮し、隣県と連携した指令システムを求めている。

#### 町の特性を生かした地域振興を

#### 地域と協議し整備したい

**問** 県外からも高瀬の湧水を汲みに来ている。周

辺で旬の農産物の宣伝、販売などを検討してはどうか。

**竹島農水商工課長** 「高瀬ゆう水の庭」はひそかな観光地となっており、特産品などのPRや、販売所の情報提供の設備などを検討したい。

**問** 舟見地区の枅形の整備や本陣の図の掲示などどのように検討したか。  
**農水商工課長** 有意義なものであり、舟見地区と話し合いながら必要な整備を検討したい。

#### 介護職員の確保が心配 国に処遇改善を求めよ 処遇改善費用の全額国庫負担を働きかけたい

**問** 新川地域介護保険組合では3年間で、特養や老健施設で100床増、

地域密着型サービスで232名分増の計画だが、介護職員の確保が心配されている。

処遇改善を国に求める考えはあるか。

介護保険料の減免制度は、ほとんど適用されていない。実態に合ったものに改善すべきだ。

また、新川地域介護保険組合の要介護認定が厳しいのではないかと。

**小堀健康福祉課長** 介護職員の処遇改善の費用は、従来どおり全額国庫負担とするよう関係機関へ働きかけたい。

減免制度について、保険組合の担当課長会議などで検討が必要と考えている。

要介護認定で、要支援が多いのは、予防事業の成果と考えている。



# 空き家・空き地の管理放棄への対応は

## 町長 県のモデル事業に期待、協力したい



町営東町住宅

**問** 空き家・空き地の管理放棄が増えている。雑草が繁茂し、野生小動物のすみ家になるなど、周辺住宅への影響は計り

知れない。国道8号線の沿線でも同様のあり様。

所有者が責任を持つことは当然であるが、町としても実態把握に努め、行政指導を強めるべきだ。

**町長** 「空き家・空き地」の管理放棄は所有者だけの問題にとどまらず、生活環境、景観、衛生面においても近隣住民に不安を与えるだけでなく、防犯面においても問題がある。県が空き家の実態を調べるモデル事業に取組んだことから、町としても積極的に協力し、今後の空き家対策に対応したい。

地域主権一括法制定で権限移譲はどうか

未熟児の訪問指導など 来年4月から

**問** 地域主権一括法に基づく条例の見直しや、県から市町村への権限移譲はどうか

**草島総務課長** 公共下水道の構造や、終末処理場の維持管理、公園施設の設置基準など条例改正に向けて準備を進めている。

権限移譲については、字の区域の変更、未熟児の訪問指導などが来年4月から移譲される。

**問** 条例制定権の拡大の中、公営住宅の収入基準、若年層の単身者入居容認

同居親族要件の廃止が可能となった。

見直す考えは。

**建設下水道課長** 入居者の収入基準は月額所得額15万8000円以下となっており、見直しについては県内の動向、住宅事情などを勘案しながら検討したい。

単身者の入居容認は、高齢者や障害者、DV被害者などへの住宅供給が困難になる恐れもあり、引き続き同居親族要件を適用したい。

**中学校武道(柔道)必修化の安全対策はどうか**

**柔道有段者を配置し、指導方法に万全を期す**

**問** 2学期から武道の必修が本格実施となる。生徒間の体力差のある中で

安全対策をどう進める。

**柚木教育委員長** 指導者育成や安全対策の徹底が求められており、柔道有段者の教員を配置し、前向きに取組んでいる。

生徒間の体力格差のある中で

①基礎的事前指導の徹底

②個々の状況を見極めながら、指導計画の作成・相手を尊重することの重要性を理解

など、万全を期している。安全面については、受身の習得の徹底、生徒の健康観察や怪我の有無などに注意する。

また、授業ごとに、武道場の安全点検を実施するなど、安心して取組めるよう努めたい。



鬼原 征彦 議員





完成した舟川ダム



野島 浩 議員

震災がれきの早急な試験焼却を

町長 住民の理解と安全を第一に考え  
被災地の復興にできる限り協力したい

問 「放射能汚染物質」ではなく、「災害廃棄物」であり、受け入れに対する諸条件も整った。試験焼却を早急に実施

すべきと思うが。

町長 7月26日に直接現地へ視察団を派遣し、放射線量などの測定を行ない、安心して受け入れできるものと確認した。

また、処理施設に隣接する地区住民や町民全体を対象とした説明会を開催し、理解と協力が得られるよう説明した。

あくまでも、町民の安全を第一に考えて、できる限りの協力をしたい。

いじめや不登校の実態とその対応は  
解決済みもあるが  
いじめゼロを目指す

問 全国的にいじめが大

きく社会問題化しているが、本町における現状とその対応はどうか。

堂徳教育委員会事務局長 いじめについては、今年度2件確認したが、現在全て解決済みである。

不登校は、その傾向のある子どもも含めて小・中学校で9人である。

基本的な生活習慣が確立されていないケースが多く、主に家庭での要因が見られるようだ。

学校では、毎月、生活アンケート調査を実施し、現状を訴える場を設け、実態の把握に努めている。さらに、各学校や教育センターで、いじめなどを把握するための各種調

査も実施している。調査そのものが、いじめの抑止力となると考えている。

現在、いじめと認知されるような事例はないが、重症化する前に、早期発見・対応が必要である。

教師が子どもと触れ合う時間を多く取って、対応することが重要と思っている。

不登校など、未解決の事例は継続して取組んでおり、今後も「いじめゼロ」「不登校ゼロ」の町を目指したい。

舟川ダム完成を機に  
新たな観光開発を

観光拠点となるよう  
必要な整備を進めたい

問 舟川ダムが完成し、バーデン明日を拠点とした滞在型観光を進めるため、林道整備や谷江の堤

周辺を利用したパークゴルフ場の建設を考えてはどうか。

副町長 パークゴルフの愛好者が急激に増えており、里山の自然あふれる環境の整備が可能ならば、観光の十分な起爆剤となりうると思う。

しかし、多額の設備費が必要であり課題も多く、可能性について検討したい。

問 舟見地区交流センター（仮称）内に、入善町観光協会の分室的機能の設置を考えてはどうか。

副町長 舟見地区は観光資源も多く、その機能を果たせる案内所を設置することは、大変意義があると思う。

現在、観光協会設立に向けた準備段階であり、その中で検討したい。



## 小中学校普通教室に冷房設備を設置すべき

### 町長 異常気象が「常」となる場合は、健康管理のための冷房設備が必要になる

**問** 近年、全国各地で真夏日や猛暑日が続いている。学習環境の向上や熱中症対策からも、小中学校普通教室に冷房設備を整備すべきである。

**町長** 子どもたちの成長のために、「よい環境」で「よい教育」を受けさせたいということは町民すべての願い。

この「よい環境」とは、

四季折々の美しさ、厳しさを体感することができる環境である。

学校は、暑さや寒さといった自然に対し、自らの知恵と経験で対処できる能力、「生きる力」を養う場である。

しかし最近の気象変動が恒常的に起こるようであれば、子どもたちの健康管理のための冷房設備は必要と思う。

**問** 現在学校の冷房設備は、校長室や職員室など

大人用だけが整備されている。

国の交付金制度を活用し、小中学校普通教室に冷房設備を整備すべきである。

**教育委員会事務局長** 大

きな財政負担が必要になる。オープンスペースの教室であり効率的ではない。室内と屋外の温度差があり過ぎると体調管理がしにくい。

節電対策が叫ばれているなど、様々な課題がある中で、最適な学習環境の確保と学力向上について、慎重かつ総合的に判断したい。

**問** 入善高校や全保育所にも冷房設備が整備され

ている。学校は災害時の住民の避難場所にもなる。予算の関係もあるが真剣に検討してほしい。

**企画財政課長** 財源の問題もある。何を優先させるか、年次計画などについて検討する。

#### インフルエンザ予防接種費用に支援を

#### 支援方法や手続きなどを関係機関と協議する

**問** 小中学校全児童生徒に集団接種してはどうか。また費用の一部に支援すべき。

**教育委員会事務局長** 現状は、予防接種法の改正により勧奨接種となっている。今後も個人の意思による接種で対応する。

接種費用の一部支援については、関係部局、関

係機関と支援方法や手続きの仕方などを協議し、保護者の負担とならないよう検討する。

**問** インフルエンザを予防し、発生状況を知らせるための「加湿空気清浄器」「インフルエンザ」を学校に設置せよ。

また学校給食に「R-1乳酸菌」を取込んだインフルエンザ予防策を検討せよ。

**教育委員会事務局長** 感染予防対策として、ある程度の効果が期待できるインフルエンザの導入に向けて協議したい。

インフルエンザの抑制効果の可能性がある「R-1乳酸菌」入りヨーグルトは、保護者負担の問題や予防効果について未知数の部分もあり、今後の動向を注視したい。



エアコンで猛暑日も快適に (飯野保育所)



笹島 春人 議員



7月31日～8月1日の2日間、石川県野々市市の「子育て支援策」と、福井県大野市の「地下水保全対策」についての研修視察を実施した。

野々市市の子育て支援

充実した放課後児童クラブ

当市には、放課後児童クラブが学校区毎に2～3カ所設置されており、父母会運営委員会が中心となった公設民営タイプと社会福祉法人が設置運営する民設民営タイプがある。

設置場所も、児童館内や子育て支援センター内のほか、JA支店を借りた設置もあり驚いた。かつては、学校空き教室を利用してしたが、金沢市のベッドタウンとして人口が急増しており、

空き教室が無くなったための措置である。

保護者負担は月額1万円。適切な管理と指導員の確保などを考えると、この程度は止むを得ないとのこと。夜は8時まで開かれ、保護者に喜ばれている。

指導員は、保育士や教員の有資格者。不足分は臨時の指導員で対応していた。

本町でも学童保育に対する要望は年々高まっている。

地域の協力や学校の理解、保護者との連携などがあれば、設置は十分可能と感じた。

成果を上げる

マイ保育園

在宅で子育てされ、事前に登録された方を対象に、保育所でのイベントへのお誘いや遊び場の提供、子育て相談などを行

う制度。

市内13保育園や子育て支援センターで登録を受けており、様々な支援メニューによる子育て不安の解消策や育児支援策が講じられている。年間500人を超える登録があり、一時保育や育児相談などで大きな成果を上げていた。

本町の保育所でも同様のサービスは行われているが、利用者は少ない状況だ。

大野市の地下水・湧水保全対策

大野盆地地下水の特徴

大野盆地では、比較的浅い地層から豊富な地下水が湧出し、実際5～6mも掘れば、十分な生活水が湧き出る地域である。

ただ、水位は秋から冬の渇水期にかけて低下し、春の融雪期から夏の灌水

期にかけて上昇する不安定な状況である。

地下水・湧水保全対策

大野市は、各地の湧水が「全国名水百選」や「平成の名水百選」に選ばれており、水との関わりが深い歴史的な地域である。

地下水保全管理計画の内容

大野市の地下水保全管理計画では、地下水を・自然の水循環と人為的に再生を旨とした取り組みが始まっている。



湧水の郷 大野市の「本願清水」

に地域全体で取組んでいる。

具体的には、各地にある観測井では、地下水位調査が行われ、水位が下がると「注意報」や「警報」を発令する仕組みや、冬の消雪用水使用を、個人・企業問わず厳しく制限していること。

さらに、水田涵養事業を積極的に進め、協力者には各事業所から集められた負担金や、協力金として支払われるなどの仕組みがあり驚かされた。

また大野市では、水は市民全体の共有財産であり、規制するだけでなく積極的な活用も含めて地域全体で守り続けようとする姿が見受けられた。

我々も、水はタダ、無限のものという意識を変え、安心して使えるきれいな生活水の保全に取組む事が、豊富な地下水を有する町の責務であると痛感した。

ただ、高度経済成長期以降地下水の低下や湧水の枯渇が進み、貴重な湧水文化を後世に引き継ぐことができなくなった。

そのため、関係機関や

な水循環で成り立つ貴重な資源。

無限にあるものではない。

地域共有の貴重な資源と捉え、その保全対策



# 産業教育常任委員会視察レポート

福島県いわき市 7月25日～26日

7月25日～26日の2日間、東日本大震災より1年半が経過した福島県いわき市の復旧・復興状況について研修視察を行なった。

いわき市は、福島原発より30km余り離れた福島県の東南端に位置し、東北と首都圏を結ぶ太平洋沿いの玄関口である。

## 名物・名勝の地 復興へ一歩踏み出す

美空ひばりの歌「みだれ髪」の舞台となった塩屋崎灯台のふもとに位置する「山六観光本店」を訪れた。

白砂青松と岩礁が繰り返し続き「いわき七浜」と呼ばれる美しい景勝地を有するこの周辺は、一日80台もの観光バスが訪れる東北地方の名所だった。しかし、3月11日を境に全てが変わり、今は

閑散としていた。

店内には震災当時の数多くの写真が展示され、今は地域の語り部でもある店主鈴木氏より貴重な話を聞くことができた。

親族や多くの友人・知人を失い、気持ちも沈みきっていたが、新盆の共同慰霊祭をきっかけに「もう一度、人がたくさ

ん来るような地域にしたい」と前向きに店舗の再開に一歩踏み出したという。

## 仮設商店街を小学校校庭で営業再開

浜風商店街は、大震災でほぼ消滅したが、昨年9月に地元商店街有志の

熱意で、いわき市立久之浜第一小学校の校庭で営業再開にこぎつけた。プレハブ形式の商店街として国内第1号である。今は、地域の人々の憩いの場ともなっており、商店街としての賑わいを取り戻しつつある。

## 被害の全体像は見通しすら立っていない

福島県いわき市地方振興局にて、大震災の被害状況について説明を受けた。平成24年4月現在の県の被害総額は、農林水産・商工業関連・公共施設などを合わせて9512億円にのぼるとのことであった。

原発事故では、農産物をはじめ修学旅行や観光客のキャンセル、さらに、工業製品にいたるまで、あらゆる分野に風評被害が及んだ。

1年余り経過した時点でも、その被害額は計り

知れないとのことである。

福島県では、復旧・復興を進めていく上で、原発・原子力に依存しない再生可能エネルギーを中心とした持続可能な発展を目指すとのことであった。

害を受けた。

しかし、今年に入り、活気が戻りつつある。小名浜港の大型観光物産センター「らら・ミュウ」にも観光客が戻り始め、産業用の埠頭には、石炭などを積んだ大型船が接岸するようになった。

福島県民の粘り強さが、近い将来、再生という大きな花を咲かせてくれるものと信じる。

## 徐々に観光客も戻り始め

小名浜港は、年間250万人の観光客が訪れていた有数の観光地であるが、震災により大きな被



観光客も戻りはじめた「らら・ミュウ」



仮設の浜風商店街



# 入善の祭り

## 住吉社の秋祭り(新屋)

## 2年に一度の御神幸

コシヒカリの刈取も終わると、祭り囃しが風に乗って聞こえてくる季節を迎える。

住吉社では、10月の第2土・日の2日間、2年に一度の御神幸が賑やかに行われる。

当社は今から約430年前、越中の一向一揆を憂いた上杉謙信により、焼き払われ、約数百年後に村民有



厄除けの舞「獅子起こし」

志により再建されたものと伝えられている。

現在は、町新屋、向島、中坪、上村の氏子約200戸の抛り所となっている。

今年も、10月13日午後から秋季例祭とお祓いが行われたあと、お神輿の中に御神体を移す神降しの儀式、安全祈願のお祓いが行われた。

境内においては、太鼓と笛の音に合わせ、テンポ良く「獅子起こし」、小学生による「小天狗の舞」、「大天狗の舞」、女子による踊りや住吉太鼓の奉納が行われた。

### 町無形民俗文化財に指定された獅子舞

新屋獅子舞保存会により行われる「町新屋代神楽獅子舞(2人立ち)天狗舞」は、今より約300年前、北前船で山陰・山陽地方より伝えられたものといわれている。

その後、立山権現の棒術などを取入れ改良されたという説や、伊勢神楽の流れをくんでいるとの説もある。



神社総代を先頭に御神幸

新川地方の獅子舞である下新川型獅子舞の中心をなすものとされ、町の無形民俗文化財に指定された伝統芸能である。

今日まで北海道妹背牛町での獅子舞交流会や、全国第1回獅子舞競演会、金沢百万石祭り、また今年の氷見祭りのフェスティバルなど、県内各地での数多くの競演会にも招待されている。

### 一泊二日の御神幸

神社での奉納が終わると、お神輿は公民館、神明社、農協支店、神社総代の家庭などを2日間で巡幸する。

巡幸先では、最初に家内

安全を祈ってお神輿を威勢よく左右に振る。その後、厄除けの舞として「獅子起こし」を演じ、後は天狗舞などその都度自由に組合せて演じられる。

特にお旅所や総代の家などで、狸々舞が披露されると、祭りも最高潮に達する。

氏子は獅子舞の奉納に対して御花(祝儀)を贈り、酒肴が振舞われると、声高らかにお礼の口上を読み上げる。

こうして、2日目夜遅く住吉社へ到着すると、祭りの締めくくりとして神社境内を最低3回半巡り、神社内で神昇げの神事が行われ深夜に終了となる。

### 地区の一体感を高める 伝承の行事

「とやまの祭り百選」にも選定されている7月24日の「大盤祭り」と、この秋祭りは、地域の重要な祭事であるとともに、元新屋地区全体の一体感を高める行事となっている。

### 編集の窓

秋祭りも賑わいのうちに終了し、町内各地区で秋の収穫をお祝いされたことと思います。

季節は秋分から、10月の寒露・霜降と過ぎ、間もなく11月7日の立冬を迎えます。この日から立春の前日までが冬。日は短くなり雨が降るようになります。二十四節気は、中国の気候を元に名づけられたものです。

日本と中国・韓国は、古より結びつきが深く、現代でも、それに変わりはありません。

昨今の急激な関係の悪化に驚くとともに、早い段階の関係修復を願うものです。両国が冷静に対処し、お互いに発展できるよう、政府に期待するものです。

### 議会広報編集特別委員会

- |      |       |
|------|-------|
| 議長   | 長田 武志 |
| 委員長  | 中瀬 範幸 |
| 副委員長 | 松田 俊弘 |
| 委員   | 鬼原 征彦 |
| "    | 佐藤 一仁 |
| "    | 笹島 春人 |
| "    | 野島 浩  |